令和2年10月25日

第19回静岡県福祉文化研究セミナー/日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会報告書

静 岡 福 祉 文 化 を 考 え る 会代表
日本福祉文化学会中部東海ブロック理事　平 田　　厚

1.　全　般

「静岡県福祉文化研究セミナー」の原点は、平成14年11月30日・12月1日の2日間，裾野市，裾野市社会福祉協議会，社会福祉法人富岳会の全面的協力のもと，人々が暮らす生活圏域の会場を交渉し、裾野市の全面的支援の基、「裾野市市民文化センター」（全館貸し切り/社協職員・施設職員・行政職員運営参加）において，全国各地から650 名余の参加者が「富士山麓　いのちとくらしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに熱く議論．そして，静岡県から「福祉文化の火」を消すことなく県内外に発信しようとこの大会を「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」として，繋ぎ続けて19年目を迎えた。 その年度の主な地域課題をテーマに掲げた。 そのプロセスを振り返ると、

＊第02回「全ての人が豊かに生きるための福祉文化」　静岡福祉大学　153名
＊第03回「地域福祉と福祉文化を探る」　富士川町地域福祉センター　120名
＊第04回「つながる地域に福祉文化を発信できる新たなまちづくりを語る」　静岡福祉大学　110名
＊第05回「静岡から発信する“福祉文化の創造”とはなにか」　静岡福祉大学　120名
＊第06回「これからの地域社会は一体誰が担うのか―地域と団塊の世代の役割を検証」　県労政会館　80名
＊第07回「長寿者と共に暮らす共生社会の担い手は誰か？」　県総合社会福祉会館　100名
＊第08回「長寿者と共に小地域をつなぐ仕組みづくり実現に向けて」　県総合社会福祉会館　70名
＊第09回「地方発“福祉文化の創造”これからののご近所づくりの原点を探る」　県総合社会福祉会館40名
＊第10回「“福祉文化の創造”の原点に振り返ってー世代を超えて語り合うー」　県総合社会福祉会館　46名
＊第11回「福祉文化と家族ーこれまでの家族とこれからの家族ー」　県総合社会福祉会館　50名
＊第12回「地域を変える新たな支え合いのシステムを生み出す」　県総合社会福祉会館　50名
＊第13回「静岡発　福祉文化の創造ー人々が豊かに暮らし合い，安心して暮らせる地域づくり」　県総合社会福祉会館　40名
＊第14回「静岡発　福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり」　県総合社会福祉会館　30名
＊第15回「静岡発　福祉文化の創造と豊かなご近所福祉づくり」　県総合社会福祉会館　30名
＊第16回「静岡発　福祉文化の創造とホッとする居場所」　清水区「寄ってっ亭」　30名
＊第17回「静岡発　福祉文化の創造と子どもの支援を考える」　清水区「寄ってっ亭」　20名
＊第18回「静岡発　福祉文化の創造　福祉文化と子ども」　清水区「寄ってっ亭」　20名
＊第19回「ホッとする、ご近所のささえあいは誰が創る？」　清水区「寄ってっ亭」　20名

人々が，ささえあいながら，住み慣れた地域で暮らし合う地域環境をいかにして創り出すか，地域の現状をしっかりと把握しながら，「共助」による福祉コミュニティ構築に向け， 改めて、「福祉を文化にする、静岡発（地方発） 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを、今回のセミナーでは「ご近所福祉（近助）」をキーワードに、市民と共に、生活圏域の地域環境を語り合った。特に、「コロナ禍」を契機に、これまでのご近所福祉を検証し、これからのご近所福祉のあり方を探るとともに、いかにして、住民主体を基盤にした「協働」による地域ぐるみのコミュニティ組織を維持することが出来るか意見を出し合った。

本会の活動基調である「専門性と市民性を融合した活動」「広く地域課題を共有した地域総合型活動」「新たな地域課題解決に向けた活動」をもとに、情報の共有、広報啓発、人的交流、プロセスを重視し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域における「地域課題」を掘り起こし、課題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、今後の実践活動に活かす。 今回は、昨年度、「第30回日本福祉文化学会大会東海大会」（愛知県名古屋市・中京大学で開催）を中部東海ブロック管内で開催し、「第1回中部東海ブロック大会」を明記し、今後、この中部東海ブロック管内での「福祉文化活動」が根づくことを期待した。

当初、9月5日に「第2回中部東海ブロック大会」開催を予定されていたが延期となり、コロナ禍の厳しい社会状況下において、開催地元関係からの連絡を待ちつつ、「静岡福祉文化を考える会」が継続開催してきたこの「静岡県福祉文化研究セミナー」の趣旨のもと「日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会」を含めた「広報啓発」（学会HP,チラ

シ配布等）を再度実施し開催することとした。
「静岡福祉文化を考える会」の結成は、当時、学会から静岡県での現場セミナーの開催要請により、県内の有志80名が参集し、浜松市において2日間「第11回現場セミナー」（350名参加）を開催し、「地方発　福祉文化の創造」を発信しようと誕生し、今年度25年目の節目を迎えた。

２．着眼項目

⑴「いま、なぜ、福祉文化か」その原点を学ぶ場
⑵「静岡発　福祉文化の創造 19年のセミナーの道程」「学会とのつながり」「学会ブロック活動」を学ぶ場
⑶「ご近所福祉その意識と実態調査研究活動」から学ぶ場
⑷「コロナ禍後のご近所福祉」考える場
⑸ 世代を超えて、楽しく地域づくりを語り合う環境（地域総合型学習）を実践する場

３．開催日時　令和 2 年 10 月 25 日（日）13:00～16：30

４．開催会場　静岡市清水区追分 3 丁目 5-17　　NPO 法人「寄ってっ亭」（TEL: 054-367-2878）
本会会員が、平成5年に「自宅開放型」居場所を立ち上げ、その後「介護保険制度」導入とともに、地域密着型小規模介護事業に取り組まれている場所。　現在、本会の事務局住所としている。（本会活動とは、直接関係なし）

５．参加者実績　会場内の介護事業所職員の動きのある中で、延べ20名となった。
（事業所利用者の対応で事業所職員の出入りあり）
主な参加者は、学会会員4名、社協職員1名、福祉施設従事者9名、民生委員3名、自治会長経験者3名であった。
参加者の動向は、ここにきて、一般住民の参加がほとんどなくなり後退し、既に熱い思いで、地域づくりに参画している方々、施設従事者等の層が顕著にみられるようになった。

６．運営上の努力

⑴介護事業所と「居場所」（寄ってっ亭）とは、敷地内でも離れていたが、「3密回避」徹底に努め、3か所に「消毒液」設置、会場入り口での「検温器」による検温、研修中、適宜窓の開閉実施と、当初のプログラムを変更し、短縮した進行に努めた。 マスク着用を呼びかけ、会場内には「予備のマスク準備」等徹底した。
⑵前述のように、当初のプログラムを一部変更し、「ワークショップ」と「円卓トーク」を抱き合わせた全体的進行とした。

７．展　　開

⑴事前展開

①看板・資料作成・資材準備
・看板（中央・プログラム・演題）　・レジメ40　・袋　・広報誌
・更紙30　・カメラ　・セロテープ、ガムテープ　・名簿　・ご近所福祉かるた1セット　・消毒剤3セット、マスク20枚
・検温器
②駐車場確保・表示
③役割分担明示　記録係（カメラ）　司会　受付・案内誘導　会場設営
④広報啓発
・10/10に、県内マスコミ10社に、FAXによる、開催告知と当日の取材をお願いしたが、記者からの問い合わせはあったが当日の取材はなかった。
・別添チラシを100枚作成し、県内実践者・市町社会福祉協議会等80か所に郵送による呼びかけをした。
・学会会員には、「学会HP]及びブロック会員には、郵送にて案内をした。
・静岡市ボランティア団体連絡協議会(本会加盟組織)を通じて、広報啓発依頼

⑵当日の展開

10:00　静岡市清水区「寄ってっ亭」会場着
会場設営準備　資材、資料搬入
11:00　「第203回委員会」開催　その後昼食
12:30　受付開始
13:00　開会セレモニー　開会挨拶　オリエンテーション（日程・資料）

13:10　「アイスブレーク」・・・・・・・「ご近所福祉」を演出します

・事前にかるた2セットづつを配布

・読み札を読みながら、絵札を提示して、内容に即した身近な生活状況紹介

・自己紹介（ご近所との関り・思いを紹介する）

円卓トーク「ご近所福祉に関わって一言」　・・・・・・・「アイスブレーク」につなげる

15:20　基調報告　その 1「静岡発　福祉文化研究セミナーの19 年を探る」

・「学会の呼びかけで誕生した本会」「学会とは…パンフレット紹介」「学会ブロック活動」

・大きな規模の大会等の後に残す「研修」のあり方を問う

・活動の原点を理解する

・「歩み」「プロセス重視」

15:40　基調報告　その 2「これまでの‘ご近所福祉その意識と実態調査結果’とこれから」

－誰がご近所福祉を創るか、気になるこの先―

・2020年度実施している調査の経過・中間報告

・これまでの調査結果と今年度の集計データを紹介しながら意見交換

16:10　全体会

・活動の原点とプロセス重視

・今こそ「福祉文化の創造」を推進する時代を迎えている

・「福祉文化」を行政言葉にしない、市民主体の地域づくりこそ「福祉文化」を働きかけていく

16:20　閉会セレモニー

16:40　片付・役員打ち合わせ後解散

(3) 事後展開

①関係機関・団体（静岡県コミュニティづくり推進協議会、各市町社会福祉協議会、県地域福祉課等）への資料提供（郵送により発送）

②静岡新聞社記者（常に問い合わせのある記者）に、当日の資料提供

③日本福祉文化学会報告　学会 HP のブロック活動に情報提供

④本会機関誌「OUR LIFE132号」に掲載

⑤「焼津福祉文化共創研究会」に報告

⑥「静岡市ボランティア団体連絡協議会」(本会加盟組織)に報告

8. 総　括

(1)セミナーを通じて、静岡県民に「福祉文化の創造」を発信して、19年が経過した。
県内、市町社会福祉協議会を通じて、各方面への広報啓発はできたが、今日では、県民の学習する意識は、年々減少化している中で、多くを集めた研修の難しさがある。
しかし、最近のセミナー参加者の傾向を見ると、長年各地域で、民生委員活動に取り組み、また、自治会役員等地域コミュニティ活動に取り組まれている方々が、本会は企画した各種研修会等に参画して、議論を深める環境にある。　尊い実践活動の事例をこうした場で情報交換し合いながら、さらに実践力を深め合う場の提供の役割を果たしている。

(2)継続的な「研修テーマ」を基に、地域課題解決に向けた議論を深め合うことにより、参加者は、地域に戻り,さらに実践力を高めているように感じた。

(3)本会の誕生と今日までの歩みと、「日本福祉文化学会」とのつながりを、具体的に紹介できる機会をこのセミナーでは、毎回確認できる場としている。

(4)5年前に「赤い羽根共同募金助成事業」により「若者発　ご近所福祉かるた」(60万円の助成金により、10セットのカルタを作成)作成し、県内各方面で有効に活用していただいている。 また、「鈴与マッチングギフト助成事業」により「拡大・若者発　ご近所福祉かるた」(A3 版)を2セット作成し、高齢者対象としたデイサービスや、居場所・サロン活動に活用していただいている。今回のセミナーでは、「ご近所福祉」を「見える化」「わかる化」「見せる化」する、研修教材として有効活用を試みた。 参加者には、この「かるた」の活用方法をさらに考えていただくよう呼びかけた。
2021 年度の本会の活動テーマは、引き続き「ご近所福祉の再構築」を検討し、さらに「かるた」の増刷計画を希望し、併せて「かるた活用手引き」作成を盛り込み、「2021 年度赤い羽根共同募金助成事業」の申請手続きをした。(最終決定は、2021.3 月予定)